



私・の・名・作・ブ・ック・レ・ビ・ュ・ー

岩波明さん

(精神科医・昭和大学准教授)



ミステリにおけるシリアルキラー(連続殺人者)は密室と並んで興味の尽きないテーマだが、天童荒太さんの『孤独の歌声』はこれをモチーフにした傑作である。

シリアルキラーものには、大きく二つのスタイルがある。まず探偵役がわずかな手がかりから犯人を追いつめていくもの。『九尾の猫』(タイマー)、『切り裂きジャック・百年の孤独』(島田荘司)などがある。もう一つは残酷な殺人を犯す殺人者の狂った内面を描写するもので、『魔性の殺人』(サンダース)、『殺人症候群』(ニールイ)などがそうだ。

この『孤独の歌声』は後者のタイプだが、監禁と殺人を

猟奇的な清冽さ

●天童荒太『孤独の歌声』

繰り返す犯人の猟奇的な内面を語っているにもかかわらず、不思議なすがすがしさを持つ作品だ。残酷な犯罪を扱っているのに、なぜか爽快な読後感がある。深夜のバイトをしながら自作の歌を口ずさむ孤独な青年、過去をひきずる女刑事、そしてサイコパス(精神病質)のシリアルキラー、この三人の人生が交錯したとき、事件は炸裂する。

サイコパスの犯罪者としては切り裂きジャックが代表格だが、本書と類似した事件も現実に起きている。ただこの小説が心を打つのは、サイコパスの犯罪を描くミステリに留まらず、人間の孤独をリリカルにうたい上げている点にあるだろう。ミステリとしても一級品だが、青春小説としても味わい深い。



天童荒太

孤独の歌声

作品介绍

さあ、さあ、よく見て。ぼくは、次にどこを刺すと思う？ 孤独を抱える男と女のせつない愛と暴力が渦巻く戦慄のサイコホラー。(新潮文庫)